



令和3年新年のご挨拶

青山病院 院長 大村泰



新年おめでとうございます。
世界が新型コロナウイルス感染症を克服し、より暮らしやすい世の中になるよう心からお祈り申し上げます。以前にもご紹介いたしました、青山病院には「地域包括ケア病床」があります。

この病床には、いろいろな患者さんが入院できます。大きな病院に行く程でないけれどつらい場合、家族の都合により一時的に入院したい場合、他の病院への入院を待つ期間、他の病院から退院の後まだ入院が必要な場合、癌の末期の方、などさまざまです。お心当たりの方やご家族様は当院職員にお気軽に相談ください。

当院は呉市内の病院や診療所との連携を大切に、地域の方々に信頼される医療を提供できるように心がけています。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

防火訓練（講習会）を実施しました

12月14日に青山病院職員の参加の元、防火訓練を開催しました。

今年は新型コロナウイルスの影響で年2回の消防訓練が実施できない事もあり、座学での講習会となりました。

まず総合病院の消火訓練を収録したDVDを視聴した後、訓練に臨む姿勢の大切さ、夜間体制時における連携の重要性、煙の恐ろしさ、等についての講習を受けました。

実地訓練はできませんでしたが、いざという時のために少しでも備えになったのではと思います。今後とも入院患者様や外来受診される患者様が安心して診療を受けることのできる病院を目指して努力していきたいと思ひます。



花びら餅

「花びら餅」は茶道、裏千家の初釜でいただくお菓子で正月明けの期間限定和菓子ですが、ルーツは古く平安時代まで遡ります。

平安時代、宮中では正月に「歯固めの儀式」という行事がありました。「歯固め」とは固いものを噛んで長寿を願う事で、歯医者のない昔は歯が抜けてしまうと固いものが食べられず、栄養の吸収が難しくなり、最終的に体力が落ちて死に至る事もありました。だからこそ、年の初めに固いものをつかり噛んで歯の状態を確認するともに健康と長寿を願うのが「歯固めの儀式」です。

古くは白餅の上に菱形の餅を置き、その上に猪肉や大根、鮎の塩漬けなど硬い食材を乗せて食べられていた様ですが、それが次第に簡略化し、押し鮎や味噌を餅で包んだ「宮中雑煮」が食べられるようになりました。

江戸時代になると「宮中雑煮」は雑煮風のものから甘い和菓子へと変化していき、丸く平らにした白餅に、赤い小豆汁で染めた菱形の餅を薄く作って上に重ね、押し鮎に見立てた柔らかく煮たごぼうを二本置いて現代に近い「花びら餅」が食べられるようになりました。

明治時代に入り、一般庶民にも茶道が広まっていく過程で、裏千家十一代家元玄々斎が宮中より「花びら餅」を初釜で使うことを許可されようやく世間に認識されることとなります。

もともとは裏千家の初釜でいただくお菓子で期間限定という事もあり、京都以外ではなかなか手に入らない和菓子でしたが、今では全国に広まり、茶道を嗜む人以外にも食されるお正月の代表和菓子となりました。

令和三年も新型コロナウイルスの不安が残る年明けとなりましたが、今年一年の無病息災を願ひ、今年正月明けは「花びら餅」を食してみても如何でしょうか。



診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

担当医

月曜日	午前：青山	午後：内科(交代制)	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：宮里	午後：大村	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：大村	午後：卜部・森本 (腎臓内科)	土曜日	午後：井料(脳神経内科)	
				午前：内科(交代制)	

季節の風景



樹氷